



「士別市本庁舎整備基本計画(案)」の概要をお知らせします

これまで検討を進めてきた市役所本庁舎の整備について、第8号に引き続き、「基本計画」(案)の概要をお知らせします。本号では主に「新庁舎の機能」について掲載します。

新庁舎の敷地利用・建物配置・建築計画

庁舎の整備方式は、現在の庁舎の敷地内に新たに庁舎を建築し、引越しの後、現在の庁舎を取り壊すとともに、行政組織の一部を他の施設に分散して配置する「改築+分散化A案」を基本案とします。(詳しくは、庁舎かわら版第8号をご覧ください。)

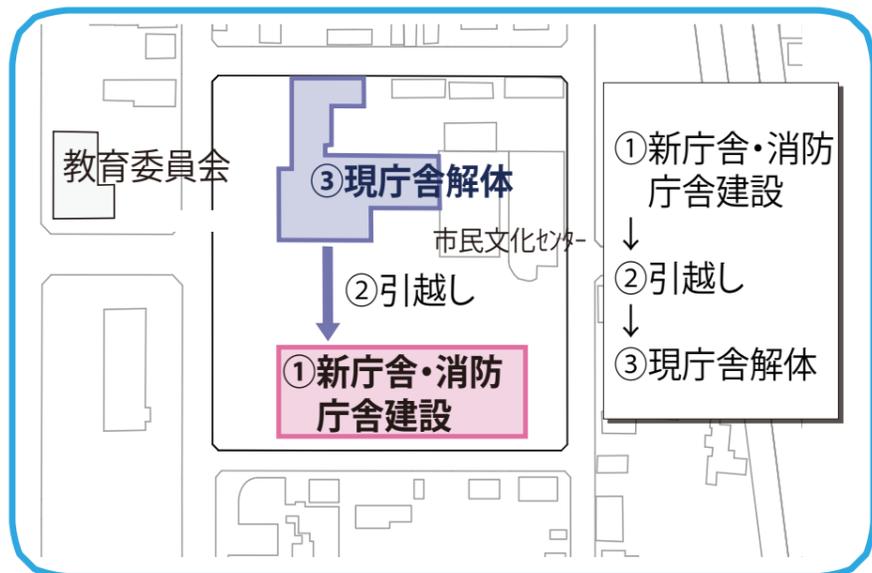
1. 敷地利用・建物配置の考え方

①敷地利用

- ・現庁舎に隣接する市民文化センターとの往来に配慮します。
- ・現状以上の駐車台数の確保をめざします。

②建物配置

- ・来庁者にとって、わかりやすく利用しやすい建物配置とします。
- ・消防車両が迅速に出動できる建物配置とします。



2. 建築計画の考え方

- ・市民の利便性や職員の導線、さらに経済性を考慮し、建物階数は1～3階建てを想定します。
- ・市民利用の多い窓口があるフロア(階)は、見通しが良く開放的な大空間を基本に構成します。
- ・出入口から近い下層階には、市民利用の多い窓口機能や相談室などを集約配置します。
- ・議場(および議会機能)については、議会閉会中における会議室としての利用など、機能的・効率的に利用できるよう、庁舎出入口やエレベータ、階段などに近接して配置します。

市民利用機能

1. 窓口機能

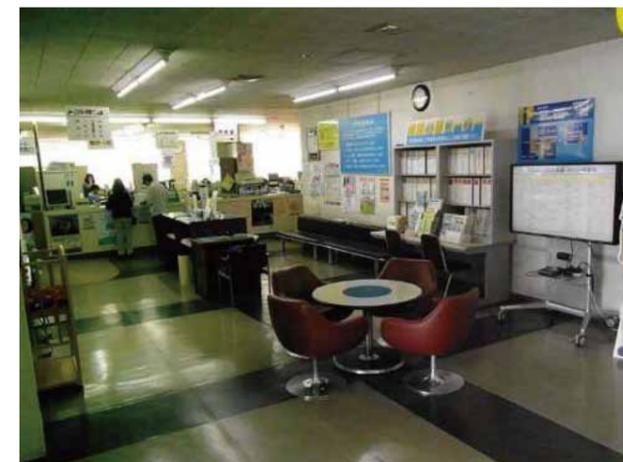
- ・各種申請や届出、証明書の発行など、市民利用の多い窓口については1階に集約し、窓口サービスの効率化と迅速な対応をめざします。
- ・窓口を一つの階に集約して配置する「ワンフロアサービス」や、一つの窓口で複数の手続きを行う「ワンストップサービス」、総合案内、コンシェルジュ(目的の窓口までの案内人)の配置などについても検討を進めます。

2. 相談機能

- ・窓口部署の一角には、プライバシー保護に配慮した市民相談室を配置します。

3. 待合スペース

- ・高齢者や子ども連れの方に配慮したゆとりのある待合スペースの検討を行います。
- ・期日前投票や確定申告時の混雑緩和をめざし、臨時対応スペースとしての検討を行います。



繁忙期には混雑する現庁舎のロビーと窓口

4. ユニバーサルデザイン(バリアフリーや案内表示、多様な利用者への配慮)

年齢や障がいの有無などにかかわらず、誰にとってもわかりやすく使いやすい「ユニバーサルデザイン」を採用します。また、施設面の充実だけでなく、職員からの声かけなどを積極的に推進し、市民目線に立ったサービスの向上を図ります。

- ・正面入口の近くに、車いす利用者等の駐車場を整備し、雨に濡れずに庁舎に出入りできる配置を検討します。
- ・柱の突起など通行の妨げとなるものはできるだけ設置しないよう配慮します。
- ・視覚や聴覚に障がいのある方でもスムーズに案内できるよう、矢印による表示や音声による案内、点字ブロックの設置などを検討します。
- ・子育て世代が利用しやすいよう、授乳室やキッズスペースの設置を検討します。

5. 市民交流スペース

- ・市民に親しまれ、憩いの場となる庁舎をめざし、休憩コーナーの設置や会議室の一般開放などを検討します。
- ・市民の市政参画を促進する情報の発信・提供の場として、市民と行政のコミュニケーションが円滑に図られる空間となるよう検討します。
- ・議会中継のほか、災害時は時速に状況を伝えるための大型モニターの設置を検討します。

防災拠点機能

本庁舎は、災害時には災害対策本部が設置され、復旧に向けた指揮を迅速かつ的確に行う拠点となります。災害時の建物への被害を最小限にとどめ、防災拠点として確実に機能を果たすために、高い耐震性能を有する構造とします。

1. ライフライン（重要設備）の維持

- 電力については、非常用自家発電機を設置し、防災拠点として活動する諸室を対象に一定期間の機能を維持します。災害対策本部室などの給電は、二重化・二系統化を検討するとともに、重要防災情報通信設備については、無停電電源から供給します。

2. 災害対策本部機能

- 災害対策本部は、総合庁舎の関係各課と消防庁舎が迅速かつ適切に連携できる配置とします。また、災害対策本部と密に連携する諸室の配置について検討し、スムーズな情報の収集・分析・発信に努めます。

3. 避難者などへの対応

- 災害時には、帰宅困難者などが本庁舎へ避難する可能性があります。さらに、救援物資の受け入れやボランティアへの対応などが想定されるため、不特定多数の人が利用できる空間（パブリックスペース）や災害時に対応可能な屋外広場の確保などについて検討します。

消防庁舎

- これまで同様、総合庁舎と一体化して整備することを基本に、災害対策本部設置時の即時対応や会議室の共有化などにより、庁舎のコンパクト化をめざします。
- 車庫は、十分な有効天井高を確保し、大型消防車5台、救急車3台、普通消防車4台、ボートトレーラー1台を収納します。
- 一般来庁者と緊急出動隊の動線が交錯しないよう検討します。



耐震性が低く狭い現在の消防車庫

議会機能

議会機能については、議決機関としての独立性を確保するとともに、市民に開かれた施設となるように議場や委員会室などを適切に配置します。また、閉会期間には、多目的な利用を見据え、今後の設計作業において、本市に適した議場のあり方を検討します。

- 席の配置や床構造の形式とあわせて、利用目的に応じた適切な音響・映像・情報設備の整備を検討します。
- 市民が積極的に傍聴できるよう、議場までの動線は短く分かりやすくなるように検討します。

行政機能

1. 執務空間・会議室・書庫など

- 開放的で視認性のよい無柱空間(オープンフロア)を基本に、職員間の情報共有が図りやすい効率的な執務空間とします。
- 会議室は、複数を集約配置するとともに、移動間仕切りの開閉によって広さを変更できるようにします。
- 書庫は常用文書以外の全ての文書を保管できるようなスペースを確保するとともに、事業費の圧縮につながるよう、庁舎外での整備についても検討を進めます。



期日前投票にも利用している現在の会議室

2. 将来的な新庁舎の利活用に関する考え方

- 将来的な人口や職員数の増減、あるいは市民要望の多様化などによって生じるレイアウト（配置）の変更に柔軟に対応し、長期にわたって有効に活用できる庁舎とします。

構造の検討

耐震安全性の基準については、国が定める「官庁施設の総合耐震計画基準」に基づき、災害応急対策活動に必要な施設のうち、特に重要な施設に準ずる施設として、構造体などの安全性の目標を定め、今後の設計段階で判断します。

環境共生をめざして

経済的で合理的な建築計画、気候風土の特色を考慮した自然エネルギーの活用、費用対効果の高い省エネルギー対策の導入により、ライフサイクルコスト（建築費や維持管理費を含めた全体の費用）やCO₂の削減をめざします。また、土別市の景観に配慮した建物とし、緑化の推進を図ります。

地元経済への波及

内装材や什器など、建設資材への地場産材の活用や特殊工法を用いない適正な設計によって、地元企業が活躍できる仕組みを設計段階で検討します。

また、土別市の様々な地域産業を活性化するためのPR拠点となるような、魅力ある庁舎づくりを行います。

【発行・お問合せ先】 土別市役所総務部総務課 〒095-8686 土別市東6条4丁目1番地
TEL：0165-23-3121 FAX：0165-22-1934 URL：http://www.city.shibetsu.lg.jp/